

## ふるさと講座歴史系第2回目を実施しました。

### 「明治から昭和の交通の要所 奥行地区文化財を巡る」

7月1日(日)町教育委員会生涯学習課文化財担当戸田博史氏を講師に迎え、奥行地区の文化財巡りを実施しました。参加者は、14名でした。

史跡旧奥行臼駅逦所では、駅逦所の歴史、奥行地区の文化財についての説明を行いました。また、史跡整備の一貫として行われている主屋改修工事現場に入っただけの見学となり、復元過程のポイントなど、工事中でなければ見ることの出来ない部分を解説いただきました。

町指定文化財 奥行臼駅、③町指定文化財 旧別海村営軌道風蓮線奥行臼停留所についても解説を交えながらの見学により、より深く文化財を知ってもらえることが出来ました。

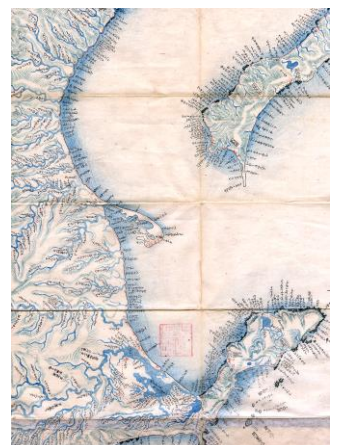
#### ○参加者の感想

- ・ 歴史的背景から説明して頂き、とても興味深いものがあります。また、貴重な写真も数多くあった。工事中の駅でい所の見学も勉強になりました。来年の公開も楽しみです。別海の町おこし大いに活用できたらうれしいですね。
- ・ 思っていた以上に高い所を見学できて、とても満足しました。勉強になりました。
- ・ 初めてふるさと講座に参加させていただきました。単独で訪問してもわからない部分等、説明をききながら見学させて頂き、貴重な時間を過ごせました。ありがとうございました。



## 北海道150年事業/松浦武四郎生誕200年記念 「松浦武四郎根室管内巡回パネル展」のお知らせ!

- 日時 平成30年9月9日(日)～16日(日)  
10:00～18:00(日10:00～16:00)※9月10日(月)休館日
- 場所 別海町図書館
- 加賀家文書歴史講座(関連講座)
- 日時 平成30年9月16日(日)10:00～12:00
- 場所 別海町図書館・加賀家文書館
- 内容 松浦武四郎の資料を見よう!
- 受付 9月3日(月)から先着30名



## 所蔵資料から振り返る！北海道 150 年、別海町のあゆみ その3 北海道の名付け親 松浦武四郎が記録した別海とは？

松浦武四郎は、6回の蝦夷地調査の内、4回根室管内と北方領土を踏査しています。海岸線、内陸部の地名や地勢、集落・漁場など、アイヌから聞き取りを行い詳細に記録しました。その行程は下記のとおりです。

### ●蝦夷地初航 弘化2年（1845）の足跡

アッケシ（厚岸町）～アツウシベツ（厚別・根室市）～ニシベツ（本別海・別海町）～シベツ（標津町）～ウエンベツ（植別・羅臼町）～シレトコ（知床岬）～ノツケ（野付半島）～子モロ（根室）～ノサップ（納沙布岬・根室市）～ハナサキ（花咲・根室市）～キリタツプ（霧多布）

### ●蝦夷地三航 嘉永2年（1849）の足跡

アッケシ沖～ユルリ島（根室市）～シコタン～クナシリ～エトロフ～クナシリ～アッケシ沖

### ●蝦夷地四航 安政3年（1856）の足跡

シャリ（斜里）～チラエワタラ（中標津町）～トエビラ（中標津町）～シベツ（標津町）～ノツケ（野付半島）～子モロ（根室）～アツウシベツ（厚別・根室市）～アッケシ（厚岸町）

### ●蝦夷地六航 安政5年（1857）の足跡

アッケシ（厚岸町）～ヲツチシ（落石・根室市）～ハナサキ（花咲・根室市）～ハナサキ（花咲・根室市）～ベツカイ（本別海・別海町）～ノツケ（野付半島）～シベツ（標津町）～チラエワタラ（中標津町）～ケ子カブト（計根別・中標津町）～カンチウシブト（養老牛・中標津町）～トチセナイ～シベツ（標津町）～チトラエ（知徒来川・羅臼町）～シレトコ（シレトコ岬）～シャリ（斜里）

●別海町での武四郎の足跡は、蝦夷地初航の弘化2年（1845）、蝦夷地四航の安政3年（1856）、蝦夷地六航の安政5年（1857）の調査記録があり、海岸線や内陸部を流れる河川等の地名や地勢などを記録しています。特に詳細な記録があるのは、集落・漁場、交通の要所としての役割を果たしていたニシベツ・ベツカイ（現在の別海町本別海）、ノツケ（現在の野付半島先端部）になります。

### ●ニシベツ・ベツカイ（本別海）

18世紀後半の記録より、西別川の河口の南側を「ニシベツ」、北側を「ベツカイ」と呼ばれていました。現在の本別海市街は北側にあたります。

蝦夷地初航の記録には、「ニシベツ、北西向きに砂浜がある。風景がよく、丘の方には、榎の木立があり、番屋がある。北は雑木で草が深く、平らな所に番屋を建てている。土地は良く、野菜が良く出来る。非常御備米（蔵）、弁天社、根室持の番屋があり、番人が出張してくる。エトロフ、クナシリに渡るための勤番止宿所になる。根室の勤番は春秋に見廻りに来る。前にニシベツ川があり、幅30間。アイヌの家が5、6軒ある。土産は、秋味、鱒、比目魚、カスベ、その他雑漁が多い」『初航蝦夷日誌』（要約）

蝦夷地四航の記録には、「ベツカエ、番屋立継通行屋（173坪）があり、ここからノツケへ船を出し、海上およそ6里である。御献上鮭塩切場（12坪）、板蔵7棟、雑蔵4棟、稻荷社、御制礼等がある。16軒のアイヌの家があり、73人が暮らしている。献上鮭はここで獲る。」「ニシベツ、番屋2棟（60坪・18坪）、板蔵3棟、献上鮭塩切小屋1棟、稻荷社がある。昔は多くの土人が住んでいたが、今は皆ベツカイへ移住した。」『竹四郎廻浦日記』（要約）

別海町郷土資料館だより No.229

発行日 平成30年8月1日

発行所 別海町郷土資料館

別海町別海宮舞町 30 番地

電話 0153-75-0802 (FAX 兼)

e-mail kyoudo@betsukai.jp

### 編集後記

7月のはじめは、ストーブを着けた記憶があり、その後長雨、下旬に入り気温が急上昇し夏真っ盛りとなりました。西日本を襲った豪雨など想定外の事が起き、決して他人事と思えません。何も無いのが一番ですが、「備えを常に」という昔教わった言葉を思い返します。(K.I)